熊谷市都市整備部都市計画課　作成

熊谷市景観講演会　概要

「景観の理論とそれを用いたまちづくり
～妻沼聖天山周辺の活性化を考える～」

講　師：東京大学アジア生物資源環境研究センター
堀　繁　教　授

日　時：平成 23 年 8 月 30 日（金）14 時～16 時
場　所：熊谷市立妻沼中央公民館大会議室

※当資料は堀繁教授の講演に参加した本市職員が、講演で伺った内容をもとに作成したものです。

①　人は、景観で評価をおこなっている。

⇒物（例えば建物）がどんなに良くても、景観が悪ければ評価されない。
⇒例えば「歓迎」と言葉で言われれば頭では理解するが、評価は景観的に「歓迎」されているかで行っている。

○景 観 と は ？　　「(視点から）見ること。」

・景観整備とは、物（建物、山など）を整備することでは無い。
・見る場所（**視点**）を用意することが大事。

○良い景観とは？　⑴「見たいものが見やすい状態にある。」

・人は、そこが「何処なのか」早く理解（外界認知）したい。
⇒見たいものの前に邪魔な物（**視軸線阻害**）がない。

⑵「見ている自分に対して“もてなそう”としてくれている。」

・人は、自分に近い方を遠い所よりも過大に評価する。
⇒見ている自分の周囲を、居心地が良いように配慮してくれている。

◎多数の人が魅力を感じる“良い景観”を整備することが大事。

◎“良い景観”とは、個人差（好みやセンス）はそれほど影響を受けない。

②　景観まちづくりは、人に“近いところ”がポイント。

⇒人間は、自己中心的な動物なので、遠いところより近いところを過大に評価する。
⇒人間は、景観で評価するので、見ている所（歩いている時は少し下を見ている）を評価する。
⇒人間は、自分に関係のある所を評価する。

○全ての街は、“道”と“沿道の建物”で成り立っている。

・“道”の方が人間に、近く、目に入りやすく（見ている）、関係がある。
・“道”と“沿道の建物”の評価の割合は、概ね６：４。

○評価のポイント　⑴“道”（自動車よりも、人を大事にしているか。）

・道路幅員に占める歩道の割合が広い（ように見える）程、評価される。
・車が走行しにくい（ように見える）線形、舗装等にする程、評価される。
・ベンチ等の休める場所が沢山あり、気軽に休めるよう整備されていると、評価される。
⇒休んで良い場所だと“形”で示すこと（**自己領域形成**）が重要。

⑵“沿道の建物”（最も評価される部分に“もてなし”のメッセージがあるか。）

・一階が最も人間に、近く、目に入りやすく（見ている）、関係がある。
⇒二階や屋根など、遠い部分、目に付きにくい部分は、あまり評価の対象にならない。
・一階部分、特に通り側の出入口を丁寧に店作りする。
⇒通りを通る人が景観的に評価してくれるよう“もてなし”のメッセージを発信する。

③　お店の売上＝通りを通る人の数×立寄り率×購買者率×客単価。

⇒売上を上げるには、まず「通りを通る人の数」を増やすことと、「立寄り率」を上げることが、が効果的。

○通りを通る人の数を増やすには？　「地域に対する景観の評価を高める。」

・見たいもの（ランドマーク、街並み、店構え等）が見やすい状態にする。
・“道”や“沿道の建物”から「人を大事にしています」、「おもてなし」のメッセージを発信する整備をする。
・くつろいでホッとできる、出来れば飲食も出来る場所（**滞留利用拠点**）を用意する。

○立寄り率を上げるには？　「通りを通る人に、景観的な評価の対象にして貰う。」

・挨拶の装置（植物）、迎客の装置（ベンチ、照明、日除け、木のドア等）、集客の装置（屋号看板、メニュー等）の三つの装置がバランス良く設置されていると良い。
⇒集客の装置だけだと、逆効果になる。
・閉ざされた出入口、アルミサッシ、壁等が“**拒絶の形**”にならないように工夫する。
⇒工夫の例：出入り口やガラス戸を全部開け放つ、ショーウィンドウで壁らしくないようにする、暖簾や行灯等で壁を少しでも隠してそちらに目が行くようにする、板張りにして硬い感じを和らげる、など。

◎商店街の活性化の為のお店作りは、通りを歩く人から見えるお店の外こそが命。

◎「挨拶、迎客、集客」装置の設置や「拒絶の形」を和らげる工夫をする為のスペースが大事。

④　妻沼聖天山周辺地域について。

○妻沼聖天山境内。

①貴惣門

・正面入口から見た時に木で隠れている部分がある。

⇒「見たいものが見やすい状況」にする。枝ぶりに注意して、あまり隠され過ぎない様にした方が良い。

・手前の駐車スペースに配慮が欲しい。

⇒「見ている場所は人に配慮している」表現。駐車ロットをタイルで区分けする等の工夫だけでも違う。

②境内及び本殿

・本殿は大変素晴らしい。本殿までの途中の境内に**滞留利用拠点**があると良い。

⇒「もてなし」の表現。気軽に休めて飲食できる場所は、歩いた人等に優しく、人も集って楽しい思い出を作ってくれる。景観的にも総合的に良い評価となる。

○“道”と“沿道の建物”。

①道

・現状のままでは景観的な評価は厳しいが、幹線道路のため中々手を付けることは難しいだろう。

⇒手を付けるチャンスを逃さず捉えて、出来ることをやっていく。

②沿道の建物

・“魅力的な店構えづくり”や“空き店舗の活用”は、意欲と工夫、それと景観的ノウハウが大事。

⇒例えば空きスペースをベニヤ等で小さく仕切れば、改装費や家賃を安く抑えられ、ハードルが下がる。

③ベンチ

・ベンチが１つしか作れなければ迷わずバリアフリー対応。沢山作れるのなら、幾つかを段差をつけた“**特別な場**所”の演出すると景観的な評価は良い。どちらの整備をするにしても**自己領域形成**は必須。